

未来を拓く人づくり推進事業で酪農研修

梅本虎之介くん（字東町・旭川農業高校3年）は、昨年8月に行われた上川総合家畜共進会の高校生・実習生の部リードマンコンテストで優勝したことなどが評価され、上川酪農を考える会の推薦を受けて、今回のカナダ酪農研修に参加しました。研修に参加した梅本君の感想は下記のとおりです。
 ※未来を拓く人づくり推進事業とは・・・将来、まちづくりを担う児童・生徒を対象に、研修や交流事業などに参加する際に、必要な経費の一部を助成するもので、平成22年度から実施しており、これまで主に中学生の台湾研修に使われています。

研修日程	研修内容
11月4日	日本からカナダへ出国
5日	<p>モントリオール周辺牧場3件視察。</p> <p>「FERME BLONDIN」(ブロンディン牧場) 8代続く伝統ある牧場で200頭～250頭の搾乳牛のほか、育成牛500頭も飼育しており、生産したほとんどの牛は、初産で販売。牛舎の床は中心に向かって傾斜になっており、牛舎中央には糞尿溝があるのでスクレッパーの除糞だけでなく、傾斜による処理もできることに驚きました。</p> <p>「FERME VAL-BISSOIN」(バルピソン牧場) カナダホルスタイン会副会長の経営する牧場。65頭の搾乳牛を飼育しており、つなぎ牛舎にロボット搾乳機を導入。日本の昔ながらの経営方法であるつなぎ飼い方式でも、ロボット化が進み、重労働や人件費の削減が進んでいました。</p> <p>「FERME GILLETTE」(ジレット牧場) メガファームで650頭の搾乳牛を飼育。この牧場では生涯で240トンの牛乳を搾ってギネス記録に載った牛がいましたが、3年前に亡くなり、18歳で11産だったそうです。この牧場は、コーンサイレージ、堆肥をカスタムワーカーに任せていて、頭数が多い中でも、牛の体調管理や餌、牛舎の清潔さには特に気を使っていました。</p>
6日	<p>ナイアガラフォールズへ移動し、周辺牧場1件視察。</p> <p>「SUMMITHOLM HOLSTEIN」(サミットホルム牧場) 490頭の搾乳牛を飼養。搾乳では、一度に32頭の牛が搾乳できるパラレル式のミルクングパーラーを採用し、搾乳効率の良い飼養管理をしていました。従業員のケアにも気を使っていて、パートの時給は1620円、正社員の年収は630～675万円となっていて、3週間の長期休暇もあり、とても良い職場環境だなと感じました。</p>
7～8日	<p>ロイヤル・ウィンター・フェア視察</p> <p>年に1度カナダ・トロントで開催される冬の農業祭です。ここには牛の共進会だけではなく、馬や羊などの共進会も行われていました。出品された牛たちは、日本とは違い、背中のもっと高い部位が鋭角であり、肋骨がよく張り出し、乳房底面が高く、乳房幅がありました。</p>
9～10日	カナダから日本へ帰国



今回の研修でカナダの酪農を実感することができました。牛乳を生産するための工夫はもちろん、いかに牛がストレスなく過ごせる環境作りができるか、いかに良い飼料を作るか、いかに良い牛作りができるかを学ぶことができました。このような貴重な経験ができたのは、いろいろな面でご指導、サポートしていただいた驚見牧場をはじめとする酪農家の皆さま、上川酪農を考える会、さらにはこの研修の準備をサポートしてくれた家族のおかげであり、大変感謝しています。今回の研修をこれから生かし、幼いころからの夢である自分の牧場を持ち、祖父母が営んでいた「梅本牧場」を和寒町でもう一度営めるよう、これからも一生懸命頑張ります。



経営者・ツアー参加者の皆さんと（ブロンディン牧場）

梅本くん